

日本アイ・ビー・エム株式会社

川嶋輝彦 社会貢献部長

このコーナーでは、「教育CSR」(企業の教育分野での貢献)に積極的に取り組む企業を取り上げていきます。今月は、日本アイ・ビー・エム株式会社(以下、日本IBM)の川嶋輝彦社会貢献部長にお話を伺いました。

企業の教育活動での貢献(教育CSR)について、どのようにお考えでしょうか。

「良き企業市民」として 社会貢献を行う

アメリカのIBM本社では1914年の創業以来、「良き企業市民」として、社会への貢献を行うことを大切な企業使命の一つとしてとらえてきました。CSR的な概念は、会社のDNAとして持っています。その流れを汲み、日本IBMでも日本社会に貢献できるようにさまざまな形で参画してきました。

当社の社会貢献活動の柱の一つとして、「教育」に対する「貢献」があり、特に幼児から高校生までを主要な対

象として教育支援を行っています。この世代の教育支援に力を入れている理由としては、小さい頃から科学や数学に対して興味を持ってもらいたい、また社会のいろいろな分野で変革を起こしていく人材を育てる教育分野に貢献したい、という考えを持っているからです。

一方、CSR的な観点では、地域と学校の交流が重視され始めている昨今、ボランティア精神に基づく地域貢献をしていくことも、同じ地域で仕事をしている企業としての大きな使命と考えています。また、地域の多くの企業が連携して、民間という立場からの知恵を出して教育貢献をしていくことも必要と考えています。

具体的にはどのような活動を行っているのでしょうか。

オンデマンド・コミュニティで さまざまなプログラムを展開

当社の社会貢献の大きな特徴として、基本的には社員の自発的な取組として、原則的には就業時間外の余暇等を利用して、無償の奉仕行為を支援していることです。会社の人事制度としてはボランティア休暇・休職制度を提供しており、こうした制度の活用は活発に行われています。

「オンデマンド・コミュニティ」では、ITを活用して当社が取り組んできたさまざまな社会貢献のノウハウを、地域のニーズに応じて支援しています。現在このコミュニティには当社の退職者も含め約6,000人、全社員の約1/4が登録しています。この中から、「エンジニアーズ・ウィーク」や「メン

タープレイス」などのさまざまな社会貢献活動を展開しています。

「キッズスマート」は、幼稚園や保育園の就学前の子ども達を対象に知育ソフトウェアを導入した情報端末「ヤング・エクスプローラー」を寄贈する幼児教育支援プログラムです。キーボードやマウスの使い方を教えるということではなく、小さい頃から遊びや生活の中にコンピューターがある環境、いわゆるITリテラシーについて、先生方と一緒に考える機会を提供することを目的としています。

「エンジニアーズ・ウィーク」では、技術を通して子どもたちに夢や楽しさを伝え、技術に対する興味を高め、エンジニアという職種に対するあこがれを醸成することを目的として、学校教育の現場にエンジニアが訪問しています。その活動の中核として行われている「ロボラボ」は、レゴで組み立てた自動車型ロボットのコンピューター・プログラミングによる操作を体験できる

プログラムです。このプログラムは2006年から始めており、2008年は約40件実施しました。

「トライサイエンス」は、楽しみながら科学やテクノロジーの世界を体験できる、世界初のインターネット上の科学館として開設しました。現在は、全国8つの科学館に14台の情報ステーション端末を設置し、39の実験コンテンツを紹介しています。また、この「トライサイエンス」を活用した「トライサイエンス実験教室」を各地の科学館等で開催することも、学校行事などへの実験教材の提供や事前研修会を実施しています。

「メンタープレイス」は、当社の社員が、IT(情報技術)企業の社員としてのキャリアに基づいて、子どもたちの相



談相手になる教育支援プログラムです。セキュリティの確保された環境で、電子メールのやり取りを通じて一定期間、勉強の悩みや将来の仕事といった話題でコミュニケーションを行います。世界各国では2000年から、日本では2003年に、人事部門が主催する女子中学生向けのキャリア支援プログラムである「BM EX.I.T.E. Camp」の参加者と女性技術者の間で初めて開催されました。

また、現在、力を入れている社会貢献プログラムとして「コーポレートサービス・コー(Corporate Service Corps)」があります。これは当社社員による海外支援チームを組織、派遣し、世界のNGOと協力して、開発途上の経済・環境・教育分野への基盤構築支援に取り組んでいます。

2008年は全世界から100名の社員が選抜され、その中で日本から5名が参加しました。参加者のうち1人の女性社員はタンザニアに派遣されましたが、派遣期間中にある高校の生徒達とメンタープレイスを通じて一週間に一

度コミュニケーションを行い、帰国後にその高校のキャリア学習授業において報告会を行いました。

大学との多様な連携

「IBMユニバーシティ・リレーション」という大学連携プログラムにも力を入れています。1987年に「日本IBM科学賞」を創設し、科学技術の分野で優秀な研究や学問をしている、国内の大学あるいは公的研究機関に所属している若手研究者を表彰しています。

また、2007年から「BM Day」を開催しています。このプログラムは、IBM本社の研究者が参加し、IT業界の最新動向や今後の研究開発の課題について、大学で講演会を開催しています。2007年は東京大学で、2008年は慶応大学で開催されました。

「ワールド・コミュニティ・グリッド」というプログラムでは、世界中の企業や自宅にあるパソコンをグリッドという技術によって接続し、アイドリング時間(コンピューターの電源が入っているが使われていない時間)の処理能力を結集してスーパーコンピューター並の処理能力を提供します。ヒトたんばく質の解析やAIDS/HIVワクチンの開発などのプロジェクトにおいて、大学や研究機関の研究を支援しています。

教育CSRのこれからの展開について教えてください。

学校をもっと支援できる プログラムを開発していきたい

これまで展開してきたプログラムについては、参加いただいた学校から非常に高い評価をいただいています。今後も、私達の持っている製品や技術や知識を活かして、社員ボランティアの協力を得ながら、子どもたちにさまざまな教育の機会を提供したいと考えています。環境教育や英語・国際教育といった分野でも新しい教材を開発していきます。これらの豊富な教育支援プログラムを通じて、学校の先生方の教育カリキュラムのお役に立てるような支援を行えればと考えています。

プロフィール

川嶋 輝彦 さん

昭和41年生まれ。東京都出身。
平成元年4月、日本IBM入社。
平成2年より対外広報(PR)に従事。
平成13年から2年間、社団法人経済同友会会出向、平成15年、同会代表幹事に就任した会長(当時)の広報サポートに従事。平成20年4月より現職。



このコーナーは、財団法人日本漢字能力検定協会の協賛の下、教育CSR会議の協力を得て連載をしています。